

中間報告書

令和 7 年 9 月 12 日現在

1 事業名

体験型家族旅行 Family Trip

2 実施期間 令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

備中地域の多様な地域資源を活用した体験型家族旅行プログラムを開発・提供。単なる観光地訪問ではなく、学びのある体験を通じて新しい旅行スタイルを提案し、備中地域の魅力発信と関係人口の創出を目指す。

② 事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

◆体験プラン造成

本事業では、岡山県備中地域において、地域の生産者と協働しながら体験プログラムを企画・実施している。地域資源を活かした新たな観光資源の創出と、生産者の収入機会の多様化を目指すとともに、備中地域を訪れるきっかけやファンづくりにつなげることを目的としている。

体験プログラムは、子どもたちの“生きる力（非認知能力）”の育成にも重点を置いており、FamilyTripでは「挑戦する力」「たくましさ」「力を合わせる力」の3つを柱として育成に取り組んでいる。これらを促すために、「やったことなくてもやってみる」「最後までやる」「気持ちを伝える」といった行動を引き出す設計とし、主催者・体験事業者・保護者が共通認識を持って子どもに関わることを重視している。

この取り組みをより効果的にするため、一般社団法人教育ソリューション研究協議会主催の「非認知能力育成トレーナー養成講座」を受講。プログラム冒頭では、「体験が非認知能力に与える影響」や「親の声かけの重要性」について保護者に伝える時間を設け、またアンケートでは保護者による振り返りや言語化の機会を設けた。加えて、体験の記録や感想を書き込む『思い出スタンプ帳』や、子どもの頑張りを言葉にして伝える「いいねカード」などの仕組みも導入し、家庭内での継続的な関わりを促す工夫を行っている。

[1]たまごや体験&春野菜収穫体験プラン

実施日：令和7年5月21日（水）～22日（木）

実施地域：井原市美星町（阪本鶏卵・美星コメットファーム）

参加者数：募集活動を行ったが、申し込みゼロのため中止

[2]春野菜収穫体験プラン

実施日：令和7年5月24日（土）～25日（日）

実施地域：井原市美星町（美星コメットファーム）

参加者数：4組14名（岡山県、兵庫県）

宿泊先：星空ペンションコメット・山王ちぐら・民泊ほしおと

内 容：

井原市美星町で活動する農家を訪問し、農業の大変さや楽しさ、美星町の「星空を守る活動」が野菜に与える影響などについて学んだ。参加者は実際に野菜の収穫を体験し、その収穫した野菜を使ってピザづくりにも挑戦。農家から直接話を聞き、体験し、そして食を通じて食文化への関心と感謝の気持ちを深めるとともに、地域への愛着を育む機会となった。

[3]たまごや体験&春野菜収穫体験プラン

実 施 日：令和7年6月7日（土）～8日（日）

実施地域：井原市美星町（阪本鶏卵・美星コメットファーム）

参加者数：3組12名（岡山県、京都府、大阪府）※内2組はインスタグラマー
宿泊先：星空ペンションコメット・民泊ほしおと

内 容：

〈たまごや体験〉

井原市美星町の養鶏農家を訪問し、養鶏に対するこだわりや想いについて、社長自らの言葉で語っていただくことで、学びの機会を提供した。参加者は卵選別機を使った仕事体験を行い、自ら選別した卵をパック詰めし、パックに絵付けを施してオリジナル卵パックを作成。体験を通じて、たまごの生産背景や食の大切さに対する理解を深め、地域の魅力を体感する機会となった。

〈春野菜収穫体験〉

[2]に同じ

[4]お茶摘み&紅茶づくり体験

実 施 日：令和7年7月12日（土）

実施地域：高梁市松原町（高梁紅茶）

参加者数：9組19名（岡山県、兵庫県、鳥取県、愛媛県、広島県）

内 容：

高梁市松原町の茶園を訪れ、耕作放棄地を再生し茶の栽培を続ける農家の想いに触れながら、お茶づくりの背景について学んだ。参加者は風が吹き抜ける高梁の盆地で育った香り高い茶葉を自ら摘み、紅茶づくりに挑戦。茶葉の香りや色の変化を楽しみながら、農家の方々と和やかに交流し、紅茶にまつわる技や話に耳を傾ける時間は、地域への愛着を育むきっかけとなった。五感を使った体験を通じて、自然や人とのつながりを感じる機会となった。

[5]夏野菜収穫体験プラン

実 施 日：令和7年7月19日（土）～20日（日）

実施地域：井原市美星町（美星コメットファーム）

参加者数：2組7名（岡山県、兵庫県）

宿泊先：山王ちぐら・民泊ほしおと

内 容：

井原市美星町で活動する農家を訪問し、農業の大変さや楽しさ、美星町の「星空を守る活動」が野菜に与える影響について学んだ。参加者は夏野菜の収穫を体験し、朝に収穫されたばかりの新鮮な野菜を氷水で冷やした後、自らカットして野菜スティックとして味わった。夏ならではの爽やかな味わいととも、野菜が持つ本来の甘みや香りを実感する機会となり、食のありがたさや地域の自然の豊かさを感じる時間となった。体験を通じて、農家との交流や自然とのふれあいを深め、地域への愛着を育むことができた。

[6]夏野菜収穫体験×フォトグラファー撮影会

実施日：令和7年7月24日（木）

実施地域：井原市美星町（美星コメットファーム）

参加者数：5組16名（岡山県、熊本県）

内容：

[5]の内容に加え、プロのフォトグラファーによる撮影会も実施。普段は子どもの写真を撮る側に回りがちな保護者の方々も、自然な表情で家族と一緒に写真に収まり、家族の思い出を形として残すことができた。撮影を通じて、体験の楽しさや家族の絆がより深まり、地域での時間がより記憶に残る特別なものとなった。

もともとは SNS 発信用の素材撮影を目的にフォトグラファーを起用していたが、せっかくの機会に参加者にも還元できるように、フォト付きプランとしてアレンジ。参加者への提供を通じて、旅行体験の満足度向上や「思い出を持ち帰れる」ことへのニーズの有無についても検証として開催した。

[7]しいたけハウスおしごと体験&夏満喫プラン

実施日：令和7年8月複数日

実施地域：高梁市宇治町（社会福祉法人 P.P.P.）

参加者数：募集活動を行ったが、申し込みゼロのため中止

内容：

高梁市宇治町にあるしいたけ栽培ハウスを訪問し、しいたけの収穫や選別など、しいたけハウスでのおしごとを体験。この施設では、障がいのある方々も働かれており、参加者は作業を通じて、栽培の工程だけでなく、多様な人々が関わりながら仕事に取り組む現場を実際に見ることで、理解と気づきを深める機会とする。

地元食材をふんだんに使った BBQ やサウナ体験、花火、焚き火といった「夏ならではの」のアクティビティも用意。参加者は、地域ならではの自然や食、文化に触れながら、家族や仲間との時間をゆったりと楽しむことができた。働く体験と季節の楽しさが組み合わさることで、子どもたちにとっても、心に残る濃密な体験として企画した。

◆備中地域の認知向上の取り組み（SNS 発信）

〈自社アカウントでの発信〉

本事業では、備中地域の魅力や体験プログラムを広く伝えるため、SNS（主に Instagram）を活用した情報発信にも取り組んでいる。単に体験プランの内容や参加募集を告知するだけでなく、地域の風景、関わる生産者の声、体験を通じた気づきや感動、非認知能力と体験活動との関係性など、ストーリー性をもたせた投稿を心がけた。加えて、参加者の声や体験レポートなどを通して、リアルな体験の価値や地域の温かさが伝わるよう工夫して発信している。

こうした取り組みを通じて、備中地域への興味・関心を持つ人が少しずつ広がっている。実際に、FamilyTrip が主催する体験プランへの申し込みだけでなく、Instagram の投稿をきっかけに井原市大江町の宿泊施設を知り、直接宿へ申し込みに至った事例も確認されている。また、体験申込ではないものの、FamilyTrip と連携している農家が栽培するブドウに興味を持ったフォロワーから、購入についての問い合わせが入るなど、体験を軸にした情報発信が地域製品の販路拡大にもつながる兆しが見られている。

今後も、体験の魅力と地域の価値がセットで伝わるような SNS 活用を進め、関係人口の創出や地域のファンづくりにつなげていく予定である。

〈インスタグラマーによる発信〉

令和7年6月7日～8日開催の「たまごや体験&春野菜収穫体験プラン」については、岡山県内・兵庫県内で活動しているインスタグラマーを招致し、その体験の魅力・地域の魅力発信をお願いした。

いずれも発信後、フォロワー数の増加にも繋がっており、お客様層に類似するインスタグラマーによる発信は効果があると感じている。

はればばさん（岡山県／フォロワー5万人）

- ・フィード投稿（計1回）
- ・閲覧数約5.6万回
- ・いいね数 232件／保存数 182件

きゃりーさん（兵庫県／フォロワー1.3万人）

- ・リール投稿（計2回／FamilyTrip 単独内容1回、体験型旅行3選1回）
- ・各動画約1万回再生

◆備中エリア体験マップの作成

本事業では、体験プログラムへの参加をより充実したものとするため、体験先だけでなく、その周辺にあるおすすめのスポンサーや宿泊施設など、地域の魅力を広く紹介する「備中エリア体験マップ」の作成を予定している。

現時点では紙媒体でのマップ作成には至っていないが、Google マップを活用し、事前に体験会場周辺のおすすめスポットを案内。体験開催前にコミュニケーションツール（LINE）を通じて参加者へ情報発信を行っている。この取り組みにより、「おすすめスポットのおかげで体験以外にも楽しむことができた」「紹介してもらったお店がお気に入りになった」「親目線で勧めてくれるので助かる」といった好意的な声が多数寄せられており、地域滞在の満足度向上につながっている。

参加者の多くがスマートフォンでの情報取得に慣れていることから、今後は紙媒体によるマップの作成を進めるか、引き続き LINE 等のコミュニケーションツールを活用したデジタル形式での発信を強化していくかについて、効果や利用状況を踏まえて検討していく予定である。

◆夏休み親子バスツアーの開催（補助金対象外）

今回の補助金対象事業とは別に、高梁市を中心としたエリアで「夏休み親子バスツアー」を開催。岡山駅発着でマイクロバスをチャーターし、吉備中央町～高梁市をめぐる行程で、乗馬体験、ジビエ料理の試食、野菜収穫体験、飯盒炊飯、星空観測、旧吹屋小学校の見学、吹屋ふるさと村の散策など、地域の自然・食・文化を親子で体感できるプログラムを実施した。

参加は3組9名と少人数であったが、参加者からは非常に高い評価を得ており、地域の多様な魅力を一度に体験できる企画として好評であった。今後は、このようなバスツアー形式での体験提供も視野に入れ、継続的な造成を検討していきたい。

<今後、実施すること>

◆体験プラン造成

次の展開として、今後は体験事業者のみで当日の運営を担う体制づくりにも挑戦していく。地域の中で自立した体験受け入れが可能になることを目指す一方で、非認知能力の意義や親の関わり方など、これまで主催側が担ってきた情報提供をどのように継続するかが課題となっている。そのため、体験事業者が当日運営を行う際には、体験前の段階で参加者に必要な情報や視点を事前に伝えられる工夫（デジタル資料の配布、申込時の動画案内等）を検討しており、主旨を損なわずに質の高い学びが得られる体験設計を引き続き模索していく。

[8]ぶどう収穫&ぶどうすくい体験

実施日：令和7年9月13日（土）

実施地域：井原市美星町（美星コメットファーム）

参加者数：1組3名予定（岡山県）

内 容：

井原市美星町で活動する農家のもと、「ぶどう収穫&ぶどうすくい体験」を開催予定。これまでの体験と同様に、農業の大変さや楽しさ、美星町の「星空を守る活動」が農産物に与える影響について学ぶ導入パートを設け、体験を通じて地域や自然への関心を育む構成。参加者がぶどうを収穫した後、冷やして水に浮かべたぶどうをすくって味わう“ぶどうすくい”を体験。岡山の誇るフルーツの美味しさを五感で感じながら、収穫から実食までを一連の流れとして体験することで、食への関心や地域への愛着を深める機会とする。

また、本体験は本事業において初めて、農家のみで当日の運営を担う予定。

[9]たまごや体験×フォトグラファー撮影会

実施日：令和7年9月20日（土）

実施地域：井原市美星町（阪本鶏卵）

参加者数：4組9名予定（岡山県、兵庫県）

内 容：

[3]で実施したたまごや体験の内容に加え、プロのフォトグラファーによる撮影会を実施。フォトグラファー撮影会に関する目的は[6]のとおり。

[10]しいたけハウス収穫体験

実施日：令和7年11月予定

実施地域：高梁市宇治町（社会福祉法人 P.P.P.）

[11]たまごや体験

実施日：令和7年11月予定

実施地域：井原市美星町（阪本鶏卵）

[12]明治ごんぼう収穫体験

実施日：令和7年12月予定

実施地域：井原市芳井町（明治ごんぼう農家）

◆体験事業者の育成

これまでに複数回の体験実施を経験している事業者については、プログラムの流れや参加者対応に慣れ、自立した運営体制に向けて準備ができる段階にある。（9月に実行予定）

また、体験プログラムの質を維持しつつ非認知能力育成の意図を伝えていくために、体験前の事前説明や参加者への資料提供の仕組みを整える必要があり、その準備も進めている。

③ これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

評価指標	評価方法	目標	実績
開催回数の達成度	計画に対する割合	12回	7回 (達成率 58%)
参加人数の達成度	定員に対する割合	48組	23組 (達成率 48%)
体験後の子どもの行動変容 (体験1ヶ月後アンケート)	行動変容を実感した保護者の割合	80%以上	回答回収中
備中地域への愛着形成 (体験1ヶ月後アンケート)	再訪意向、口コミ発信意向	90%以上	回答回収中
SNS フォロワー数	SNS インサイト分析	10,000人以上	3,365人 (達成率 34%)
参加者満足度 (開催直後アンケート)	参加者アンケート	90%以上	100%
メディア掲載数	メディア掲載実績集計	5件以上	2社 (達成率 40%)
体験事業者のみでの当日運営	開催結果	1事業者以上	0 (9月実施予定)

〈今年度事業終了後の成果・効果の見込み〉

今年度は多様な事業者との連携に加え、同一の体験事業者と複数回にわたってプログラムを実施することで、受け入れへの慣れや自信の醸成を図ってきた。その結果、今後の自立開催が現実的な段階に入ってきており、一部の体験先では自走化の見込みが立ち始めている。

体験先事業者が自立して開催できるようになれば、FamilyTripの担当者が関与しなくても受け入れが可能となり、日程の柔軟性が高まり、体験の機会をより多く提供できるようになる。また、事業者自身にとっても自由度の高い運営が可能となる。

FamilyTripとしても、企画の立ち上げから自立開催までのプロセスを通じて得たノウハウを蓄積することで、来年度以降の体験先事業者の増加や、対象エリアの拡大に向けた基盤を築いていきたい。

〈アンケートの参加者感想〉

- ・体験もお宿も関わってくださった方がとても、温かく迎えてくださり、こどもたちも安心していろいろな体験に挑戦することが出来ました。
- ・自然のなかでの発見や体験はこどもの目の輝きが違いました。そして野菜が美味しすぎて、いいもの、本物はこどもも大人も心から満足できます。とてもいいツアーでした。
- ・とても楽しんで収穫し、採れたての野菜を切って、パリパリその場で頂いてとても楽しんでたことと、その後野菜をたくさん食べるようになった。
- ・生産者さんの苦労の背景や思いが間近で感じられる貴重な体験でした。参加出来て本当に良かったです。

- ・茶摘みから始まり、茶葉の完成、試飲までとにかく楽しかったです。お茶の味もまた格別に感じました。皆さんのおもてなしもあたたかく、参加者の皆さんもフレンドリーで最高の1日になりました。
- ・紅茶づくりはもちろん、参加されていた方とのいろいろなお話も、とても楽しかったです。家で持ち帰った茶葉で紅茶が作れたのも、すごく良かったです。

④ 課題等

- ◆体験の価値向上のため、これまで企画担当者が調理などの工程に関わりながら実施してきたが、自立運営を目指すにあたり、同様の内容を体験先事業者のみで再現するのが難しいケースが出てきている。今後は、一部内容を簡素化・見直しし、事業者が無理なく実施できるプログラムへの改善が必要である。
- ◆平日プランを通じて、比較的稼働率の低い平日に予約を促し、宿泊施設の収益向上を図ることを目的にプログラムを造成したが、集客には至らなかった。
改善策としては、以下の点が考えられる。
 - ① 集客開始時期の早期化
平日に休暇を取得するには、より早い段階での情報提供が必要であると考えられ、募集開始の前倒しが求められる。
 - ② 未就学児向けプログラムとしての再構築と訴求強化
平日に参加しやすい層である未就学児とその保護者をターゲットとし、内容の見直しと対象年齢の明確な打ち出しを行う。これらの対応により、平日開催プランの魅力と参加ハードルの低減を図り、再度プランの造成に挑戦していきたい。
- ◆当初は全プランを宿泊型での造成を想定していたが、宿泊施設および体験先事業者との調整が難航したことから、複数のプランを日帰り型に切り替える対応を行った。また、宿泊プランとして造成したものの、集客に至らなかったケースもあり、全体として収入予算額を下回る結果となっている。
今後は、より早期の企画・調整を行うことで宿泊プランの成立を図り、収支面でも安定した運営につなげていく必要がある。
- ◆高梁市において「桃太郎シルク（ブランドトマト）」の収穫体験開催に向けて企画・調整を進めていたが、今夏の酷暑により収穫時期が例年より大幅に早まり、農家側の出荷対応が逼迫したことから、体験受け入れが困難との申し出を受け、実施を見送る結果となった。
農業体験は気候や天候の影響を大きく受けるため、今後はそうしたリスクを考慮しつつ、通年または天候に左右されにくい体験プログラムの造成にも取り組んでいく必要がある。
- ◆非認知能力の育成には保護者の関わりが重要だが、自立運営時にもその意義が伝わる仕組みが必要。今後、事前資料やデジタルコンテンツなどを活用した情報提供の方法について検討していく。
- ◆体験活動には非認知能力の育成に資する効果があるが、1回の参加だけでその効果を実感するのは難しい。重要なのは、体験をきっかけに家庭内での声かけや対話など、継続的な関わりが行われることである。
そのため、体験後も参加者となつながりを持ち続ける取り組みが求められる。地域や体験の価値によるリピーター獲得だけでなく、コラム等を通じた情報発信により、家庭内での関わりを促進しつつ、FamilyTripのファン層拡大にもつなげていきたい。
令和7年8月よりホームページでのコラム発信開始。今後、公式LINEでの発信などを検討。

4 参考事項・資料

収支精算書見込又は収支（変更）予算書※

（収支（変更）予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した

収支（変更）予算書のこと）

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果 他

5 次年度以後の事業展開

次年度の事業展開	事業展開の方向性 (以下のチェック欄のいずれかに「✓」を記入してください。)
	<input checked="" type="checkbox"/> 提案団体の自主事業として収益を得て継続・拡大していくことを目指す。
	<input type="checkbox"/> 地域づくり事業として事業を継続しつつ、次々年度の自主事業化へ備える。
	<input type="checkbox"/> その他（ ）
次年度の事業展開	中期的な目標を実現させるための具体的な事業の内容
	<ul style="list-style-type: none">・体験先事業者の自立運営体制の構築・FamilyTrip 認知度向上による体験先への送客強化・体験先事業者、宿泊先事業者の連携先拡大・体験がもたらす教育的効果についての専門性を高める・地域資源×新テーマでの体験開発（気候に左右されにくい体験の開発） など